

幼児に性教育って？

園長 堀田あけみ

親として、必要だけど向き合うのが難しいことは沢山ありますが、性教育もこの一つです。というか、一番困るものではないでしょうか。教員にとっても難しいのは同じですが、幼稚園でも教員が研修を受け、今まで「そういうものだから」だったことを、見直してアップデートする作業を年ごとに進行させています。

この話題が、夏に登場することにも意味があります。プールや水遊びで、着替える機会が増えるからです。園児にもプライベートゾーンについて教えます。そして、一斉に同じところではなく、男子と女子を分ける、一人で着替えたい子には、そのスペースを与える、といった配慮に加えて、お着替えを手伝う際にも、触れていいことを確認します。

文章で書くとこれだけ。望ましい配慮のように見えます。ただ、実行するとなると、いろいろな問題が生じてきます。そもそも着替えが自分ですることではない、と思っている子がいます。年少さんはほとんどそうかもしれません。だから、はい、着替えますよ、で、教員主体でさくさく進めるほうが早いのです。外部の方から、どうせわかってないよ、と笑われることもあります。教員の自己満足に見えるらしいです。実際に、子ども達の反応から判断して、うん、わかってないね、と思うことが大半です。

でも、手を抜くわけには行きません。この大半が減っていくことが大切なのです。触れてもいいかな、今からお着替え手伝うね、嫌だったら嫌って言っていいいよ。そういった、あなたの意思を尊重しますよ、という声かけは、あなたの体はあなた自身のもので、誰かが勝手に触れて良いものではない、あなたは大切な人で、他人からも尊重されるべき存在だ、と、子どもの心に種をまく作業です。どうか、ご家庭やこれからの環境の中、たくさんの水と日光とを得て、育てられますようにと願うばかりです。もちろん、「触らないで」は本当に嫌なときに言うもので、意地悪な気持ちで言わないでね、という確認もしてあります。

悲しいことですが、今年度に入ってから弱者をターゲットにした性的犯罪が連続で発生しています。加害側にいたのが教育者だったケースも報道され、地元ですし、大きなショックを受けました。でも、ネットを媒介としていると考えると、どこにいても危険は避けられません。こういった報道を受けると、お子さんを安心させるために、被害者側にも落ち度があったように伝えることもあるようですが、悪いのは絶対的に加害者です。自衛は必要。大人に対して、嫌なものは嫌というのも自衛の手段です。

なんでもかんでも嫌々では困りますから必要性を見極めて、ほどほどに、子どもの自己主張とも付き合っていきましょう。あくまでも、ほどほどに。